

# 関節リウマチ患者の主観的症候を軽減させるための心理・社会的支援プログラムの開発とその有効性の評価

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2022-06-10 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 平井, 孝次郎 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2003376">https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2003376</a>

## 論文内容の要約

学 生 番 号	3219008	指 導 教 員 確 認		主 査	植木 純 教授
氏 名	平井 孝次郎		副 査	高谷 真由美 先任准教授	
				副 査	青木 きよ子 名誉教授

学 位 論 文 名	関節リウマチ患者の主観的症状を軽減するための心理・社会的支援プログラムの開発とその有効性の評価
訳 タ イ ト ル	Development of a psychosocial support program to reduce subjective symptoms in rheumatoid arthritis patients and evaluation of its effectiveness
共 著 者	
論文内容の要約 (1,000 字～1,500 字)	
<p><b>【目的】</b> 本研究の目的は、関節リウマチ患者の主観的症状を軽減するための心理・社会的支援プログラムの開発と、その有効性を検討することである。</p> <p><b>【方法】</b> 1. プログラム開発 第1研究では、通院する関節リウマチ患者に質問紙調査を実施し、主観的症状に影響する心理・社会面を明確化した。第2研究では、第1研究の結果を基盤として「関節リウマチ患者の主観的症状を軽減するための心理・社会的支援プログラム」を作成した。さらに、プログラムの妥当性を確保するために専門職者・有識者と検討した。</p> <p>2. プログラムの有効性の検討 第3研究では、主観的症状を有する日本リウマチ友の会の会員25名を対象に2群の非ランダム化比較試験を実施した。介入群には、3か月間プログラムを実施した。プログラムは対象者が生活を振り返り記載するプログラムシートに加え、研究者による定期的な計5回の電話介入で構成されている。主要評価指標は、主観的症状（疼痛・倦怠感・朝のこわばり）の1・3か月値とした。副次的評価指標を主観的QOL尺度得点、精神回復力尺度得点とした。また、プログラム終了時のインタビュー調査（半構造的面接）結果を質的帰納的に分析し評価指標とした。</p> <p><b>【結果】</b> 質問紙調査（n=93）では、関節リウマチ患者の主観的症状に最も影響していた心理・社会面は主観的QOLであり、主観的QOLに強く影響していたのは精神的回復力であった。この結果を基盤としてプログラムを作成した。専門職者・有識者（n=6）によるプログラム検討の結果から、目標設定の追加等の修正を行った。</p> <p>非ランダム化比較試験では2群間の均質性が確保できなかったため、各群において分析した。介入群（n=16）はプログラム開始から1か月で疼痛、3か月で倦怠感が有意に改善した。朝のこわばりは有意な改善を認めなかった。対照群（n=9）では主観的症状は改善しなかった。また、介入群において開始3か月で主観的QOL尺度得点の有意な向上を認めた。精神的回復力は有意に向上しなかった。対照群では両得点に有意な変化はなかった。インタビュー結果を質的帰納的に分析した結果、主観的症状の改善群では「他者との交流を大切にするようになる」という社会的特徴が認められた。非改善群では「否定的な見方をする」という心理的特徴が認められた。</p> <p><b>【考察】</b> プログラム介入による疼痛と倦怠感の改善は、主観的QOLの向上によるものと推察される。精神的回復力尺度得点の有意な向上を得られなかった。今後はプログラムを再検討し、より効果的なプログラムに修正する必要がある。その際は、他者との交流を促進することや、否定的な見方を改善するようなプログラム内容の検討も必要である。</p> <p>主観的症状および主観的QOLの有意な改善は介入群のみであり、対照群には認められなかったことから、本プログラムの有効性が示されたと評価できる。</p> <p><b>【結論】</b> 心理・社会的支援プログラムにより、関節リウマチ患者の疼痛と倦怠感が軽減されることが確認された。主観的症状を有する関節リウマチ患者への心理・社会的支援の重要性が示唆された。</p>	